

平成25年度東京都高等学校新人陸上競技選手権大会のみどころ 男子

今年の夏は猛暑日が続き、トレーニングをするには厳しい状況だったと思います。ですが、今大会に向けて合宿等で努力してきた成果を発揮しようと1・2年生の新人達が熱戦を繰り広げます。

来年の山梨でのインターハイに向けて、今大会や神奈川県での関東新人大会（10月19・20日）がその前哨戦となります。来年を担う1・2年生の頑張りにご声援を・・・。

また、10月4日から味の素スタジアムで行われる「東京国体」に出場する選手も今大会で活躍すると思われます。こちらにも熱いご声援をいただきますようお願いいたします。

・短距離

100m・200mでは、大分インターハイで1年生ながら活躍した大嶋 健太（東京）を中心として展開されそうだが、大嶋は「東京国体」に備え100mのみの出場となった。国体に弾みがつくような好記録を期待したい。大嶋に続くのは、中学時代からのライバル小池 真郁（久我山1）だが、200mでは優勝候補筆頭だろう。二人に迫れるとしたら角本 惇（東京2）、福島 翔夢（都町田2）、笠木 拓海・田村 一浩の創価高コンビ、西尾 悠汰・山崎 大紀をはじめとする城西勢と思われる。最近の東京都スプリント陣の活躍から今年も好記録が期待できそうだ。

400mでは、都総体覇者の坪 佑貴（八王子2）が故障からの回復が間に合わず欠場したのは残念だが、支部予選で48秒台をマークした800m専門の手塚 光貴（日大豊山2）と選抜大会で同じく48秒台をマークした椿 純平（城西大1）との争いとなるのではないだろうか？溝口 侑平（日大豊山2）と尾崎 正大（桐朋1）も48秒台の力があるので混戦となれば一気に47秒台が期待できる。

・中長距離

こちらも最近ハイレベルの800mだが、手塚と長尾 俊希（城西大）の一騎打ちとなる可能性が高い。都総体で優勝した手塚だが、全国出場を逃した悔しさから成長した様子だ。全国レベルの1分52秒台を目標とした所だろう。タイムレースの予選から白熱したレースが展開されることを期待したい。

1500mと5000mでは、有力選手が東京都駅伝の開催が間近に迫っているため出場を控えた学校も少なくない。そんな中で、支部予選を勝ち抜きこの大会で優勝を狙えそうなのは、1500mでは大谷 智希・打越 晃汰の久我山勢がレースの主導権を握りそうだ。そこに、永来 翔太（日大二2）高橋 健留（東京1）の二人が続くと思われる。5000mでは14分台の選手は見当たらないが、片西 景（昭和第一学園2）がトップタイムで優位を築いている。しかし、タイムレース決勝となっているだけに各選手が積極的に走り番狂わせが起こる可能性も高い。出場者全員に、夏の鍛錬の成果を発揮し、駅伝シーズンへと弾みのつく好走を期待したい。

3000mSCは、41名もの選手が出場し予選から混戦が予想される。その中で、小野塚 久弥（青山学院2）が自己記録から有力だ。久我山の阿部 太聡・川島 凜・盛田 真吾のトリオが虎視眈々と狙っている。

・ハードル

110mHは、残念ながら14秒台の選手はおらず15秒前半での優勝争いとなりそうだが、荒井 駿哉（立教池袋2）、栗城アンソニータイレル（八王子2）が優勝を争いそうだ。1年生の成長に期待するとともに、来年に向けて強化の必要な種目であろう。奮起を期待したい。

400mHは、深津 大輝（都駒場2）が唯一54秒台の記録を持ち優勝候補の一番手である。まだ、経験が浅いだけに競り合うレースを積み重ねるだけで記録更新ができそうだ。池田 圭太（都文京2）、栗城、北山 亮介（東京1）、新井 連（堀越1）らに記録向上の期待をしたい。

・競歩

5000m競歩では、伝統的にこの種目を得意としている東京実業の選手が今年も有力だ。猿山 浩史・小笠原 凌・村上 武の2年生3名がその伝統を引き継ぎ全国レベルに成長していくことだろう。特に猿山はすでに22分台で歩いており来年の全国大会を視野に入れることができそうなだけに21分台を期待したい。

・跳躍

走高跳では、優秀な1年生の出現でレベルが上がりそうだ。昨年の全中優勝の石川 遼（桐朋）とJ.O優勝の平塚 玄空（岩倉）である。二人は今季2mを越えており、石川は2m02、平塚は2m01をマークしている。この二人が優勝を争い最後まで残ることと予想できる。また、南関東に出場した同じ1年生の鈴木 海平（堀越）は勝負強いことから自己記録を2m台に乗せてくる可能性もあり、優勝争いに顔を出してくるかもしれない。

棒高跳は、今年東京都からインターハイに出場できなかった種目である。その中で、4m60の自己記録を持つ田代 丈（東京2）が優勝することは間違いない。夏のトレーニングの成果があれば4m70以上を跳ぶことも可能だろう。しかし、参加者が少なく自己記録が3m台の選手も多いことから今後の強化が必要である。

走幅跳は、全国での活躍が期待されながらケガで都総体ですら出場できなかった間中 太亮（日大豊山2）が復活してきた。実力が発揮できれば7m30台の記録をマークすることも可能だろう。また、インターハイに出場した金子 諒（都練馬高）、国体に出場する井関 慶人（東京2）と中村 健人（都調布北1）も7mジャンパーであることからハイレベルの試合が展開されそうだ。

三段跳では、東京国体に出場する井関 慶人が14m91の記録を持ち断然優位だ。金子 諒が14m台後半を跳べば幅跳び同様ハイレベルになりそうだ。15m越えを目指したいところだ。

・投擲

砲丸投・円盤投ともインターハイに入賞している東京高校の安藤 夢（2）が両種目に優勝しそうだ。東京国体での両種目での優勝を目標としているだけにインターハイ優勝記録を上回りたいところだろう。砲丸投では同じ東京の栗本 恭宏（1）が13mを越え1・2位を独占しそうだ。円盤投では40mに迫る記録を持つ山口 史哉（都小平2）、船越 龍馬（都足立東2）が安藤に続きそうだ。

ハンマー投げでは、1・2年生で50mを越える記録を保持している選手は大谷 健也（都府中工高）ただ一人だ。大谷と同僚の坂下 晃太郎（2）も50mに迫る力があり上位を独占しそうだ。

やり投げは、南関東大会に62m台に記録で優勝しインターハイに出場した山田 舜（東京成徳2）が圧勝しそうだ。支部大会では54m台に留まったが実力を発揮できれば2位以下を引き離しそうだ。山田に迫りそうなのが高橋 智樹（穎明館2）、田島 史章（岩倉2）だが55mを越えなければそれも難しいだろう。砲丸・円盤の安藤も3種目制覇の可能性もある。

・リレー

両リレーとも城西が優勝争いのトップだ。個人種目との兼ね合いもあるが、個々の力も高いものがあり、層も厚いことから両種目に優勝する確率は高いだろう。八王子が両種目で、400mRでは東京・創価が、1600mRでは日大豊山・桐朋が争う事と思われる。

・総合

短距離種目に多くの入賞者が出そうな城西高校。長距離種目に優位な久我山高校。ロングスプリントや走幅跳での高得点が可能な日大豊山も総合得点を重ねていきそうだが、短距離の大嶋、投擲の安藤とインターハイ入賞選手の活躍が大量得点に結びつくことから、各種目で万遍無く得点を獲得できる東京高校の連覇は確実であろう。